



# 新春を迎えて

二松學舎大学

# 父母会報

平成5年5月10日創刊  
平成27年1月20日発行  
(第87号)

二松學舎大学父母会  
(本部・事務局)  
東京都千代田区三番町6番地16  
二松學舎大学学生支援課

題字は  
故 観山貞廣常吉先生書



父母会長

木村 一成



新年あけましておめでとうございます。  
父母会会員の皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えのことと喜び申し上げます。

昨年は皆様のお力添えの元、父母会活動も順調に進めることができました。「地区別父母懇談会」においては大学と父母の皆様のパイプ役としての父母会活動に対するご期待も大きく、多数の応援メッセージをいただき、大変感謝しております。

世の中は、未曾有の自然災害や、不安定な経済状況の中、まだまだ不透明な状況が続いております。学生の就職活動も幾分改善はされたものの、昔の日本のように、元気で右肩上がりの状況にはまだほど遠いと思っております。

今年就職活動の解禁日が三月となりますが三年生はまずは自分から行動を起こしてください。ご父母の皆様は口は出さず、子供たちが行動

しやすい環境を作っていただけるようお願いしたいと思います。そのためにも大学のキャリアセンター等を活用し、学生一人一人が自ら行動を起こすことで必ず道は開けると思います。

父母会の奨学金制度も「グローバル人材の育成」「就職活動に生かせる資格習得」に向けて本年度から「成長支援型（資格・能力育英）奨学金」制度として再スタートしました。是非積極的に活用いただきたいと思います。

昨年は二松學舎にとつてうれしい話題もたくさんありました。附属高校野球部は夏の甲子園、東京代表として初出場しました。「十一度目の正直粘った二松學舎悲願の夏切符」と言う見出しで新聞紙面を飾りました。大学父母会・大学父母会会員の皆様からも多くの寄付金をいただき、附属高等学校からお礼があったこと、この場をお借りして皆様にご報告します。これからの活躍に期待しましょう。そして年末に新校舎四号館が靖国通り沿いに完成しました。九段の地で四年間学生生活が送れる環境がまた整ったと思います。

本年度の父母会活動も終盤を迎えました。三月の卒業パーティー、次年度の計画等に向け役員一同一丸となり最後まで全力で取組んでまいります。引き続き父母会活動へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

父母会会員の皆様には謹んで新年のご挨拶を申し上げます。また、日頃よりお寄せいただいております本学の教育研究活動へのご理解とご支援に対し、心より御礼申し上げます。「松無古今色」。松の古今の色はなし松の翠は四季を通じ、今昔を問わずいつもみずみずしく茂っています。

創立百三十八年目を迎える二松学舎は、長い歴史に歳月を重ねながら、松の翠を保ち続けて行く必要があり、このために用意されたN2020 PLANに基づいて、アクションプランの実行が切に求められるところであります。

さて、平成二十五年度から開始されたアクションプランは約二年間が経過しました。これまでの進捗状況を概観します

と、グローバル化や知識基盤社会化進展等の中で、それに応じた教育改革を進めていく必要があります。大学教育の質的転換が大きな課題の一つで、これを軸に学長に改革を進めて頂きました。具体的には、カリキュラムのナンバリング化、両学部の開講科目を難易度別に順序だて、学生がどの順番で科目を受講すればいいのか、その判別を容易にさせていく役割を持たせることとしました。

同時にシラバス(学習計画書)に学習、復習時間の目安や小テスト、レポート作成等を指示する等宿題を多くする試みを通して、履修科目の知識や理解をさらに深める試みを行っております。また教育方法についても、課題を与えグループ討議や意見発表の時間を多く設けて、個々の学生が自分の意見を発表し、他人の意見に耳を傾け、それらについて、結論を纏めていける力をつけてやることが必要であり、この面での教育方



## 年頭所感 — 松無古今色 —

学校法人 二松學舎

理事長 水戸英則

りましたが、学生の中には就職とは何か、何故就職をしないといけないのかなど疑問を持つ学生が少なくなく、就職の意義や必要性、すなわち、大学と企業の違いや社会的に自立する意味などを、早いうちから教育する必要があるとの観点からの対応です。さらに学生個々の学修や資格取得各履歴、就学時の出来ごと等をデータベースに保持し、教員との面談や就職相談等に利用させる目的の「学生ポートフォリオシステム」も導入しました。こうした幾つかの措置が教育の質的転換を構成しており、これの一つが欠けても、目標とする「社会で生き抜く力」は身に付かないということです。この本学の取組は、文部科学省の採択制補助金「私立大学等改革総合支援事業」に平成二十五年から二年連続で採択され補助金を受けるという成果を生んでいます。

法の工夫を行うよう教員にお願いしております。次にグローバル化対応面では、国際政治経済学部を二年次から履修出来る英語特別プログラムを設置しました。次にキャリア教育については、両学部を初年次からキャリアに係る授業科目を設置しており、加えて文学部では、二年次からキャリア関連選択必修科目を増設しました。これまでもキャリア教育を行って参

平成二十五年から大学機能を九段に完全集約致しました。これに伴う教室や学生のラウンジスペースの不足が懸念されておりましたが、靖国通りに四号館の建設を始め、昨年末無事に竣工を見ました。新館にはラーニングコモンズ(次世代型の自習学修スペース)を新設し、ICTを活用した高機能化教室や東アジア学術総合研究所等が入る予定です。また、平成二十七年中に既存の一、二、三号館は全面的に所用の改装を行う予定です。先ず二号館の一、二階には、四号館と同様、ラーニングコモンズが新設されます。また、一号館七階には国際政治経済学部教員の個人研究室が設置されますし、三階には、教務・学生・入試等の教学事務部各課、キャリアセンター、教職支援センター

「ム」も導入しました。こうした幾つかの措置が教育の質的転換を構成しており、これの一つが欠けても、目標とする「社会で生き抜く力」は身に付かないということです。この本学の取組は、文部科学省の採択制補助金「私立大学等改革総合支援事業」に平成二十五年から二年連続で採択され補助金を受けるという成果を生んでいます。

今年も私も教職員は、本プラン実現のため、挙げて努力していく所存でありますので、父母会会員の皆様に対して、引き続きのご支援、ご協力をお願いして、末年、新年のご挨拶といたします。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎え、保護者の皆さま並びにご家族のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

二松學舎大学は「学生が成長できる大学」を目指しています。学生諸君は二松學舎大学で学び、成長したいという鋭い希望を抱いていると思います。二松學舎大学に行けば、文学が学べる、書道が学べる、国際政治経済のことが学べる、英語や中国語や韓国語が学べる、国語の先生になれる、そう信じて、また期待して入学して来たに相違ありません。好学の若者たちを一步でも二歩でも成長させ、社会へ送り出すことは二松學舎大学の使命です。教職員一同は「熱意、親切、誠実、責任感」を持って教育研究に取り組んで参る所存です。

さて、二松學舎大学における国語科・書道の教員養成は、二松學舎専門学校の時代以来の教育目標の一つです。本学出身の国語科教員は現代文だけでなく、古文・漢文を教えることができる実力のある先生、さらにはまた誠実な先生であるとの評価を得ています。毎年、文学部一年生のうち約六割の学生が教員免許状

の取得を目指します。それは他大学の文学部とは比較にならない多い人数です。都道府県の教員採用試験の合格者数と合格倍率においても、他大学の教育学部や文学部を圧倒しています。今年度は九十六名の四年生が教員採用試験を受け、一次合格者が二十九人、二次試験合格者が十九人でした。

## 年頭所感

### 如何なる時にも、待つことは大事です

人かいます。在學生や卒業生が頑張っている例は他にもあります。国際政治経済部の卒業生で、国家公務員試験I種の試験に合格し経済産業省に勤務している人、茨城県庁上級職に合格し県庁に勤務している人、公認会計士試験に合格し監査法人に勤務している人かいます。さらにはまた東京都市の区議会議員や千葉県の市議会議員をしている人や国連職員としてミャンマーで活躍している人などがいます。



二松學舎大学 学長 渡辺和則

自分の能力に依じて自分のペースで歩んで行けばよいのではないでしょう。自分のペースを乱すことは間違いの原因になります。急がないで一歩ずつ自分の道を味わって進んで行くのもよいかもしれません。私事で恐縮ですが、私が大学の教員になった時に、父親が私に「焦っちゃダメだ」と言ってくれました。また副学長になった時には、当時の二松學舎理事長の佐藤保先生(本学名誉教授)に「自然体でやるのが一番ですよ」と仰っていた

だきました。苦しい時には、私はその言葉をしばしば自分自身に向って繰り返します。そして思いが新たになるのを待ちます。

しかしそういう時でさえ、本学の学生は採用試験に合格しています。実際、千葉県で国語科教員の募集が一人という年度においても、本学の学生が採用試験に合格しています。国際政治経済学部においても、卒業後しばらく非常勤教員として経験を積み、採用試験に合格し中学校の教員をしている人、通信教育や他大学の大学院で小学校の教員免許状を取得して小学校の教員をしている人が何

人間にはいろいろなタイプといろいろな生き方があります。「いかなる逆境にあつても決して敗北主義に陥らず、常に活発に進取の気性をもって対処する」という生き方ができるタイプの人がいます。ここで紹介した人たちは「諦めの拒否」の意気を持って努力した人たちであり、そういう人たちは立派だと思えます。

しかし誰もがそういう生き方をできるわけではありません。私たちは



## 海外研修報告

延辺および韓国  
の言語・社会事情

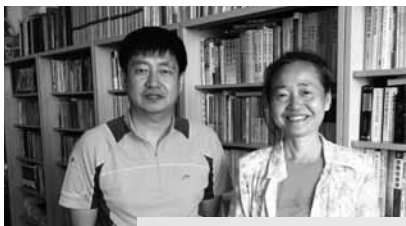
文学部教授 塩田今日子

八月十日から二十日まで、中国の延辺朝鮮族自治州および韓国（ソウル、慶州、全州）を廻って言語・社会事情を視察させていただいた。

二〇一二年に自治州設立六〇周年を迎えた延辺朝鮮族自治州の延吉市は建築ラッシュであった。韓国との関係が深まり、夜は橋や建物がライトアップされるなど街には活気が感じられた。観光客誘致のため、龍井市にある詩人・尹東柱の生家周辺も整備されていた。しかし朝鮮族の人口はここ数年激減し、漢族の比率が増加している。これは語学に堪能な朝鮮族にとつては、韓国などで働いたほうが格段に稼げることによる。

朝鮮民族の聖地と言われる白頭山（中国名長白山）は二〇〇六年に管轄が自治州から吉林省に移り、その麓の村からも朝鮮族の流失が著しい。朝鮮族民族村などの施設も漢族によって運営されている有様であった。店の看板のハングル表記にも漢族が書いたと見られる誤りが散見された。

北朝鮮との国境地帯である図們、



琿春なども訪れたが、川を挟んだ対岸の北朝鮮には人影がなかった。国境を渡る車両の数も少なく、北朝鮮との交流は停滞しているようだった。けれども延辺大学の許明哲先生から、延辺の将来や北朝鮮について肯定的なお考えを聞くことができたのは幸いであった。北朝鮮から来た研究者によれば、北は速度は遅いが確実に変化しているという。

韓国では、ソウルにあるソンミサンマウルで、経済優先の考え方から脱却した共同体の町づくりという新しい試みに接することができた。

貴重な機会を与えてくださった父母会に心から感謝申し上げます。

## 海外研修報告

## 「映像と空間のあいだ」

文学部准教授 松本健太郎

平成二十六年八月十九日から八月二十七日にかけて、海外研修の一環としてフランスのパリを訪れた。今回の目的は次の二点であった——まず第一に、パリ近郊にあるディズニールランド・パリを視察・調査すること。第二に、私の専門である映像論に関連して、数々の名画が収蔵されている美術館を訪問することである。

最近わたしの研究は「映像と空間のあいだ」へとその焦点を移行させつつある。わたしはこれまで現代的な映像メディアを題材としながら、たとえば写真によって被写体の現実がどのように表象されるのか、あるいはテレビゲームによって人々の行為がどのように再構成されるのか、といった問題を分析の俎上に載せてきた。それが近頃では『空間とメディア・場所の記憶・移動・リアリティ』（ナカニシヤ出版より近刊予定）という本を編集したということもあり、「映像」と「空間」（これら二つの鍵語を結びつけた研究を（とくにテーマパークを題材としながら）展開していこうと構想中である。



ボンピドゥー・センターにて

ディズニールランドの個々のアトラクションは、アニメーションに含まれる映像世界を物理的空間のなかに延伸し、来場者にその追体験の機会を提供するものであるが、今回の調査によって、その人工的な記号世界に対する人々のかかわり方が文化によって、すなわち日本とフランスとでだいぶ異なることがわかった。研修期間中、それ以外にもルーヴル美術館、オルセー美術館、オランジュリー美術館、ポンピドゥー・センターなど、フランスを代表する美術館をゆつくりとみてまわり、今後の研究上のヒントを得ることができた。末筆になりますが、このような機会を与えていただいた父母会に厚く御礼申し上げます。

新年明けましておめでとうござい

す。今年も、学生の就職支援に尽力して参りますので、よろしくお願

い申し上げます。さて、各種のメディアで報道されているとおり、現三年次生

から、就職活動に関する取り決め「倫理憲章」が見直され、新たに「採用選考

に関する指針」が策定されました。それによりまずと、新指針では、企業

説明会等の採用選考に関する広報活動が、従来の十二月一日解禁から、三月

一日より開始、そして採用選考活動が従来の四月一日開始から八月一日開始

と変更になりました。このように就職活動のスケジュールは、後ろ倒しとな

った訳ですが、余裕があるわけではありませ

ん。現実的には企業側にとっても、この新指針のもとで、充分な採用活動

ができるのか、という不安もあり、「採用選考のため」とはしてい

ないものの、春休み中のインターシッ

プや、業界研究会等といったイベントを開催し、学生との接触を始めてい

るところもあります。「まだ大丈夫」、などとのんびり構えていては、取り返

しがつかないことにもなりかねませ

ん。そこでキャリアセンターでは、一月から三月にかけて様々な支援行事を開催いたします。奮ってご参加くださいますよう、ご家庭でもご指導賜りたくお願

い申し上げます。

【経営者と語る会】二月三日(火)

東京中小企業家同友会の協力により、企業経営者と、お話しさせていただく会を設けました。企業とはな

にか、社会人とはなにか等といったことを企業経営者から直に学べる機会です

ので、多くの学生のご参加を期待して

います。

【就活まとめ講座】二月四日(水)、五日(木)

毎週木曜日に通年で開講してきた「就職特別講座」の総まとめをおこな

います。

【就活メイク講座】二月四日(水)

女子学生を対象に、就職活動にふさわしいメイクアップについて、実技を交

えて開講します。

【就活マナー講座】二月五日(木)、六日(金)

正しいマナーを身につけて、就職活動に臨めるよう、学ぶ講座を開講しま

す。

【女子力UP講座】二月五日(木)

を学ぶ講座を開講します。

【他大学との合同模擬面接会】二月十日(火)

模擬面接を、本番さながらに他大学の学生と合同で実施

します。

【業界研究会】二月十二日(木)、十三日(金)

各業界の人事担当者を招聘しての業界研究会を二日に渡

って開催します。

【テストセンター試験対策講座】(採

用担当者による面接特訓)二月十七日(火)、十九日(木)

多くの企業で導入しているSPIテストセンター試験の対策講座、並びに各

企業の人事担当者による面接特訓を実施

します。

【警察官ガイダンス】二月二十日(金)

警視庁をはじめ、首都圏各県警から採用担当者を

招聘して、ガイダンスを開催

します。

業説明会を開催しますが、それに先

だつて合同説明会に臨むにあつての心構え等について解説

します。

【GDアドバンス講座】二月二十三日(月)〜二十四日(火)、二十七日(金)

三回にわたつて開催したグループ

ディスカッション講座を経て、より高度なグループ

ディスカッション対策として開講

します。

【就職力アップ講座】二月二十五日(水)、二十六日(木)

各自の特性を見出し、ESや面接の場において的確に

自身を表現できるよう学ぶ講座

です。

【創縁会(合同企業説明会)】三月三日(火)〜三月十三日(金)

日替わりで、一日あたり最大二十社の企業を招いて本

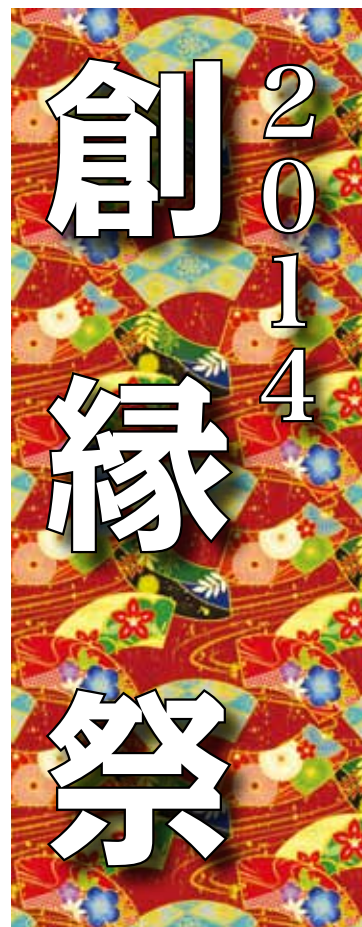
学学生のためだけの企業説明会を学内で実施

します。



本年度も**11月2日(日)・3日(月・祝)**に、  
**二松學舎大学祭「創縁祭」**が開催されました。

父母会役員会では、無料休憩所(喫茶室)という形で毎年参加しています。  
 演武、伝統芸能、演劇、模擬店、ミスコンテストなど  
 学生たちのチームワークとアイディアの賜物をご覧ください。



**創縁祭を終えて**

学園祭実行委員会委員長  
 国際政治経済学科三年

岡本 新

平成二十六年十一月二日(日)・三日(月祝)の二日間、創縁祭2014を無事に開催することが出来ました。大規模な広報活動の成果もあり、千五百人を超える過去最大の来場者の方々にお越し頂きました。本学父母会や松苓会、教職員の方々をはじめ、各クラブ団体、ゼミナールなど、多くの方々のお力添えを頂き成功を取めることが出来たと思っております。この場をおかりして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今年の創縁祭開催テーマは「二松浪漫」。参加団体との出逢い、来場者との出逢い、仲間との団結、そんな素敵な「縁」に溢れる「浪漫」がいつぱいつまった創縁祭にしたいという願いを込めました。当日は沢山の新たな出会いの中で、多くの方々に二松學舎大学の魅力を発信し、楽しんで頂けたのではないかと思います。

来年も創縁祭がこの名の通りに、「縁を創る場」「新たな縁に出会える場」としてあり続けるよう、更なる発展を目指して参ります。そして今まで以上の学園祭を二松學舎一丸となって創り上げていければと思っております。今後ともどうぞよろしくお祈り致します。





新年あけまして おめでとうござい  
 ます。今年はずっと年、ゆっくり穏やかに過  
 ぎていきたいと思ひます。最近、授業中  
 でも携帯を見ている学生を多く見かけま  
 す。あまりにも堂々と見ているので、もし  
 かけたらこちらの勘違いかと思ひえる程で  
 す。手際も良く、さっと読むと返信をし  
 ます。その間二〜五分。教員がそばにい  
 ても気付かない様子です。それだけなら緊  
 急だと思ひますが、その後

も携帯を手元に置き、読ん  
 では返信を繰り返します。  
 授業中であるのだから、携  
 帯の使用はしないようにと  
 注意しますが効果が有りま  
 せん。送信されたのを知  
 ると、確認したいのか、させ  
 られているのかのどちらか  
 は分かりませんが、彼らに  
 とって最優先課題である事  
 が分ります。

ソーシャルメディア、SNSなどと称さ  
 れているツールは若者の間にあつという間  
 に浸透して、その利用価値と共に、なくて  
 はならない物となり、現在では依存症と  
 なっている若者が増えているそうです。そ  
 して、その先にネットいじめという新しい  
 形態のいじめが生まれ問題となつていま  
 す。すぐに返信しないと攻撃される・書き  
 込んだ一言が誰かの意に沿わず無視をされ

**学 生 相 談 室**  
**だ よ り 87**  
 カウンセラー・教授 白石まりも

る・罵倒される等々、ニュースには関連記  
 事がたくさん出ています。先日、ライン  
 で無視されたり、死ね・存在自体がうざい  
 等の言葉を書き込まれ、自殺した女子高生  
 がいました。痛ましいことです。しかし、  
 高校側はいじめの実態は見つけられなかつ  
 たと発表しました。面と向かって言つたわ  
 けではないし、暴力も無いという事がいじ  
 めが無いという事ではない事は、十分認  
 識されているのではないで  
 しょうか。存在を無視され  
 る、死ね・うざいなど目の  
 前では言えない事も書き込  
 むことは簡単にできてしま  
 います。しかし、言葉は残  
 り何度でも見返す事で傷が  
 癒えることはありません。  
 目に見えにくく、深刻さが  
 分かりにくいのも、問題の  
 発覚が遅れる要因となつて  
 いるようです。

二松學舎大学では、学生の皆様が学生生  
 活を有意義に過ごして頂く為に、相談室が  
 有ります。お子様が理由が分からないがふ  
 さぎ込んでいたり、大学に行きたがらない  
 など気になる事がございましたら、ご遠慮  
 なくご連絡ください。

..... **学生相談室ホームページ** .....

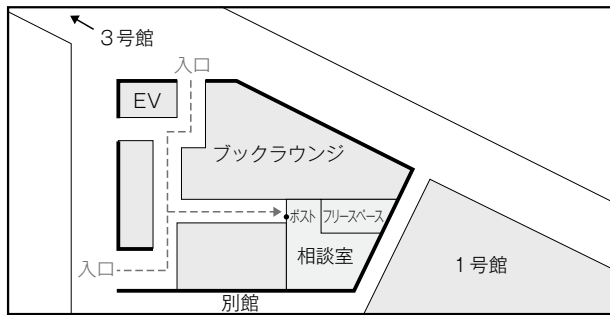
<http://www.nishogakusha-u.ac.jp/sodansitu>

二松學舎大学トップページ

▼  
 在学生の方

▼  
 学生サポート

▼  
 学生相談室



九段キャンパス別館1階 03-3265-3760(直通)

【お知らせ】

九段四号館竣工に伴い、  
 二階「ラーニングコモン  
 ズ」に父母会から次世代  
 型自主学习スペースにふ  
 さわしいスタイリッシュ  
 な机と椅子を寄贈いたし  
 ました。





## 平成二十六年 国際交流年未懇親会

十二月六日(土)に、国際交流年未懇親会を実施しました。九段一号館十三階ラウンジに、留学生、教職員、父母会役員の皆様、日本人学生サポーターなど六十八名が集いました。

渡辺和則学長から開会の挨拶をいただいた後、木村一成父母会長から挨拶と乾杯のご発声をいただきました。参加した留学生達は、授業でお世話になっている先生方以外にも、普段接することのない父母会役員の方々と積極的に交流し、日本での経験話などで大いに盛り上がっていました。

懇親会の途中で、同日の昼に開催された外国人留学生日本語スピーチコンテストの授与式を行いました。一位の学長賞を受賞した台湾・中国文化大学からの交換留学生江昱瑩(こういぐえい)さんをはじめ、入賞者は記念撮影を行いました。また惜しくも入賞を逃した留学生達の中からも「来年もまた参加して入賞を目指したい」と、より一層の奮闘を誓う言葉もあり、喜びの声と笑顔が懇親会にさらなる花を添えてくれました。

授賞式に引き続き、今年度で本学の学生生活を修了する留学生や、海外協定校から本学に交換留学生として来日している学生から一言もらい、それぞれの思い出話を披露してくれました。

最後に、武永尚子国際交流センター長より、閉会の挨拶をいただき終了となる予定でしたが、閉会後も参加者全員が名残を惜しみつつ、引き続き会話に花を咲かせていました。留学生達から、先生方や父母会役員の方々に直接感謝する場はあまりないため、本交流会の開催は貴重であり意義のある会となりました。



## 交流会の報告

父母会の助成により毎年度実施している交流会は、今年度は春セミナーと秋セミナーにそれぞれ1回実施されました。

春セミナーでは、七月十二日(土)に国立劇場で開催された歌舞伎の鑑賞教室に赴きました。留学生達は初めて目にする歌舞伎の世界に興味津々で、みな終始真剣な眼差しで鑑賞していました。

秋セミナーでは、十月二十六日(日)に山梨県の富士山周辺へ日帰りのバスツアーを実施しました。山梨県の郷土料理「ほうとう」を自分で作る体験や、台風観測基地であった富士山レーダードーム館および景勝地・忍野八海の見学を実施しました。日常の大学生活から離れた体験学習は、個人の日本文化への理解を深めることにより、留学生同士の横の繋がりが構築され、実のある交流会となりました。



# 派遣留学生の声

平成二十五年度派遣留学生として、中国の北京大学に派遣された喜島千晴さんに留学生生活の思い出、また平成二十六年年度交換留学生の江昱瑩さんから日本での大学生活について綴っていただきました。

## 留学での「出会い」



文学部中国文学科 4年 喜島千晴

北京で過ごした一年間、人、場所、出来事など、本当にたくさんのお会いがありました。それらはもちろん私にとってかけがえのない

宝です。そしてもう一つ、私の大きな宝となったのは、「外」での出会いを通して「内」で出会った新しい自分です。北京大学では中国人だけではなく、世界各国から来た留学生とも積極的に交流しました。中国人の友人からは中国語を教えてもらったり、留学生同士では中国について疑問に思ったことや好きなところ、中国語を勉強していて難しいと感じる点などを話しあい、互いの母国の文化や言語について教えあったりしました。

旅行にも積極的に出かけ、一年間で十三か所に出かけました。大同という場所では、都市開発で新しい建物の影に残ったレンガ造りの建物を目の当たりにし、春節に上海、蘇州、杭州、南京を見て回った時には、中国最大都市上海と蘇州の水辺に生きる人々の生

活、日本統治時代の韓国の臨時政府跡地や南京の大屠殺記念館などの史跡を見て回りました。旅行は毎回、自分がそれまで知らなかったことや考えたことのなかった疑問に出会う、とても有意義なものでした。

留学への挑戦は、私にとっても勇気のいる事で、自分に自信がなく、留学して自分にいったい何ができるのかを悶々と考えていました。しかし一旦腹を括って飛び出してみれば、自分が自分で思っている以上に積極的に行動できること、事に当たって多くのことを発見できることに気がきました。留学までの二年半大学で必死に学んだ中国語は、実際に使うことでその成果を実感し自信へとつながりました。また、北京大学での勉強や、それぞれ自分の夢や目標に向かって努力している人たちとの交流を通して、自分の本当にやりたいことと出会うことができました。まだまだ未熟ですが、この留学で自分は大きな一歩を踏み出せたと感じています。これからも「内」でのさらなる出会いを求め、「外」へと挑戦していきたいです。

## 平凡な幸せ



中国文化大学 江昱瑩

交換留学してから、もう百日ぐらいい経ちました。正直に言う、いまだに異国に留学している実感が湧かず、そしてホームシツ

クの問題も一切ありません。その理由は、日本語が好きすぎるからだと思えます。完璧に日本語を使いこなせるとは言えませんが、小学六年の頃からずっと日本語を勉強し続けてきた私にとっては、むしろ日本のほうが本当の家みたいなどころなのです。日本語が大好きな私は、留学して日々日本語を使っているのが、本当に毎日夢を見るように幸せです。幸せすぎて日本から離れたくないときえ思いました。

宮城や、大阪など、いろんなところへ旅行し、本場ならではの食べ物もたくさん食べて、積極的に日本人と交流した上、仲の良い友達もできました。台湾にいた頃の私は、とてもネガティブで引きこもりがちだったので、本当に変わりすぎた自分に

驚いています。

日本に来る前に、一人暮らしは平気かな、いろんな手続きは一人で大丈夫かな、日本人の友達はできるかな...など、些細なことまで心配していました。実際来てから分かったことが一つ、それらのすべてが杞憂でした。最初の頃は電車の複雑さに戸惑っていましたが、今では普通に通学し、普通に授業を受け、極普通に日本での大学生活を送り始めました。昼は部活動に出たり、放課後に友達とごはんを食べたり、休日は夜行バスに乗って遠いところまで旅行しに行ったりしました。恋をし、失恋の辛さも味わいました。

不安や心細いことはそんなになく、お菓子を食べすぎると太るかな、好きな人は自分に対してどんな気持ちなのか、悩みといえませんが、他人と比べて、そんなに刺激のある留学生活ではないかもしれません。違和感のなさにも驚きましたが、それはそれで居心地良いと思えました。留学ができたのはいろんな方のおかげです。本当にみなさんに感謝しています。この平凡な幸せを大切にしたいと思えます。



# 佐藤一樹ゼミナール

私たち佐藤ゼミナールでは、政治や社会の今後の動向を決める、さまざまな新しい潮流や考え方を取り上げて勉強しています。今年度は、多文化主義というテーマをめぐって、一冊のテキストを毎回、一章一章読みすすめています。テキストによって、移民の国アメリカが、多種多様な人々に対処する過程で、多文化主義がどのように生まれてきたのかについて学んでいるのですが、ゼミでとくに大事な

こととされているのは、現在の日本の状況と関連させて考えることです。グローバルゼミションによって、日本の国内にも文化が違ういろいろな人々が入ってきています。また、同じ日本人でも、生まれた地域や階層、教育。あるいは、LGBT(レズビアン、ゲイ、両性愛、性同一障害)といった性的志向やアイデンティティが異なる人々など、家と学校を往復するだけでは見過ごしてしまうようなことを、資料やドキュメンタリー番組などで理解する努力を

しています。前回の合宿の最後には、日本にいる中国人が多く暮らしている池袋の周辺を探索したこともありましたが、私たちのゼミは総勢四人と少人数なので、毎週の授業の密度が濃く、いかにもゼミに参加しているという意識を強くもたされます。その一方で、ゼミの主要テーマに限らず、最近の時事問題などを取り上げたり、就活についてのアドバイスを受けたり、リラクセスしておしゃべりする時間もありません。

国際政治経済学科三年

板谷隼仁、神田雅延



# 谷口ゼミナール

今年度の谷口ゼミナールでは、『子供の民俗学』をテーマに日本民俗学について学んでいます。柳田国男を祖とする民俗学は、日本人の素朴な生活文化から人々の生き方・考え方、ひいては日本人の本質を明らかにしようとする学問です。研究の対象となるのは伝説や昔話、人生儀礼や宗教をはじめ、方言や子供の遊び、年中行事など多岐にわたり、様々な分野の知識が必要とされます。

活動の中心は、年二回の合宿を含むゼミナール発表です。所属する二十一名の学生が、先生に指定された文献をもとに発表資料を作成し、春セメ・秋セメの計二回発表します。夏・春の長期休業中に実施される三泊四日の合宿では、それぞれ卒業研究で扱うテーマに沿った発表をするだけでなく、現地を民俗学の立場から調査する「フィールドワーク」も行います。また、年度末にはゼミ研究の集大成として論文集である「ゼミ誌」を編集し発行します。

昨年十一月に開

## ゼミ 探訪

催された学園祭には、青森県八戸方の郷土料理「せんべい汁」の模擬店を出店し、模擬店部門の最優秀賞を頂きました。机上の研究だけでなく、行動的な一面を持つのも私たち谷口ゼミナールの特徴と言えるかも知れません。

民俗学は、現代社会が排除してきた日本の泥臭さや温もりによって育まれてきた学問です。継承され続ける日本文化には、神々を畏れ、大地に豊作を祈った当時の人々の想いが今も息づいています。科学万能の時代だからこそ、科学では語れない学問「民俗学」を修め、日本文化の担い手として学びを深めていきたいと考えています。



国文学科三年 松本 眞月

## 大学の講義を受講してみませんか

二松學舎大学には、科目等履修生制度があり、大学の授業を広く一般の皆様にご利用しています。科目等履修生制度とは、大学で開講している授業科目(一々数科目)を学生と一緒に受講し単位も取得できる制度です。

本学学生のご父母の皆様には、生涯教育の一環として一人でも多く大学の授業を受けて頂きたいとの趣旨から、登録料の免除、科目等履修料の減額措置を講じております。この機会に、是非お子さんと一緒に大学の授業を受けられるこ

## 卒業パーティーの開催について

父母会では、卒業生の皆様のご卒業を祝し、また、在学中お世話になった教職員の皆様への感謝の気持ちを込めて、卒業パーティーを開催しています。卒業生の皆さんは是非ご出席願います。

**【日時】**  
平成二十七年三月十六日(月)  
午後二時から四時

**【会場】**  
帝国ホテル

本館二階「孔雀東の間」  
○歓談の時間を利用して、ゼミ毎の集合写真撮影を設けています。時間に制約がありますので、あらかじめ撮影順番を決めております。ご協力ください。

○卒業生の皆さんには「リボン」を必ず着用していただきます。「リボン」は卒業式当日配布します。

とをお勧め致します。内容は、次の通りです。

**■公開科目**  
学部・大学院で開講している授業科目のうち、原則として演習科目を除く授業科目を公開いたします。

**■募集要項**  
平成二十七年年度の募集要項についてのお問い合わせは、二月になりましたからお願いします。

**■授業料**  
一科目 通年科目 三万円  
半期科目 一万五千円

**■問い合わせ先**  
二松學舎大学教務課

〇三(三二六一)七四〇六

## 卒業アルバム掲載 個人写真提出のお願い

卒業アルバムは父母会より全卒業生に贈呈します。卒業アルバム用の個人写真を大学で撮影できなかった方は、左記の要領で学生支援課(九段校舎)へ、ご提出いただけますようお願いいたします。再度、ご家庭で学生本人にご確認下さい。

**●写真サイズ 縦4cm×横3cm**  
(証明写真でも構いません)

**●提出締切日**  
平成二十七年一月三十日(金)

必着

なお、ご提出戴けない場合は、学生氏名のみ掲載となりますことをご了承下さい。

※郵送の場合は、必ず学生番号と学生氏名を写真裏面に記入下さい。

※詳しくは学生支援課(九段校舎)までお問合せ下さい。

〇三(三二六一)七四二七



## 編集後記

あけましておめでとうございます。太平洋側では、乾燥注意報、日本海側では、大雪注意報が発表される季節となっています。体を壊さないようにお過ごし下さい。

さて、父母会としまして、昨年十一月には、「創縁祭」があり、無料の「休憩所」を開設し、二日間延べ二六〇名のご来場があり、大変好評でした。

また、二松學舎大学の四号館も完成し、喜ばしい限りです。

平成二十六年より父母会が提案しました、成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金制度について、四十名弱の学生が該当し、約三〇〇万円が学生に支給されました。父母会では、このような制度がありますので、お子様に、情報提供を願います。

さらに、今年度も卒業パーティーが帝国ホテルの「孔雀東の間」で三月十六日(月)に開催する予定となっています。卒業生にとっては、一生に残る思い出の一つとなる事と確信しています。

それから、外国人留学生の日本語スピーチコンテストがあり、留学生が日本をどのように考えているのか、参考になりました。